

学生チーム 活動報告・お知らせ

秋季シーズンについて

学生チームは 3 年ぶりに一部リーグに復帰して臨んだシーズンでしたが、皆の熱い想いは中々結果には結びつかなかったようです。それでも来シーズンに向けて一部残留を果たしたのは何よりですね！今シーズンで現役チームを卒業する 4 年生と、監督からコメントをいただきました。

●戦 績（関東学生クラブ選手権）

9/29	vs 明治 MRC	12- 15	●
10/13	vs 拓大オリバーズ	17- 43	●
10/20	vs 早大 GW	0- 27	●
11/10	vs RKU 龍ヶ崎	17- 57	●
12/22	vs 法政工学部	53- 22	○



●4 年生からのコメント

井上 貴史

今年度副将を務めました井上貴史です。4 年間の JS での生活を思い返すと非常に密度の濃い時間であったと感じています。降格、2 部での 2 年間そして昇格、1 部でのラストシーズン...思うようにプレーすることができず、苦しんだ時期もありましたが、そのどれもが今となっては良い経験となっています。改めてラグビーの楽しさ、仲間の大切さに気付かされた 4 年間でした。

今後は JS での経験を糧に社会で活躍できるよう努力するとともに、OB として JS のより一層の発展に貢献していきたいと思います。末筆ながら、同期、先輩、後輩、OB の皆様の支えに感謝するとともに、今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。



太田 雄大

JS で過ごした 4 年間で、強烈な思い出が数え切れないほどできました。田舎から上京し、右も左も分からなかった頃、親切に迎えてくれたのは JS の先輩でした。いつのまにか自分が先輩となり、たくさんのかわいい後輩とはいろんな場所に行きました。そして、楽しいときもつらいときも信頼できる同期がいつも側にいてくれました。



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

ラグビーを通して信頼するに足る一生の友を得る、という JS の理念通りの 4 年間を過ごすことができたと思います。

監督、コーチ、OBの方々には大変お世話になりました。JS で過ごした 4 年間を糧にし、社会に出ても頑張っけてゆきたいと思います。

齋藤 賢

4 年間を総括して、「苦勞と発見」の 4 年間だったと思います。

下級生の頃は「どうやったら周囲から信頼されるか」、上級生になってからは「どうすれば周囲を盛り上げられるか」を考えていました。中でも、主将の経験は大変貴重だったと思います。

立場が変わると、視点が変わり、視点が変わると、昔は見えていたものが見えないということを痛感致しました。だからこそ、チームのみんなとの対話を忘れてはならない、自分とは違う視点を持った仲間の意見に耳を傾けること、意見を引き出す場所を作ることが必要と、今となっては実体験を持って理解することが出来ます。このような貴重な経験を出来たのも、OB の皆様、コーチ陣、マネージャーのサポートがあって実現したものだと思います。4 年間誠に有難う御座いました。



椎名 修平

JS で過ごした 4 年間は最高でした。もちろん、大変な事も沢山ありました。しかしそれ以上に、多くのものを得ることができたし、なによりとても楽しかったです。

ラグビープレイヤーとして、そして人間として成長させてくれた JS には、感謝の気持ちでいっぱいです。ここで得た仲間や経験は、この先もずっと大切にしていきたいと思います。

最後のシーズンは情けない結果となってしまいましたが、来年度以降、後輩たちがこの悔しさを晴らしてくれるものと信じています。

JS でラグビーができて良かったです。4 年間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



下山 隼之介

主務を務めておりました、下山隼之介です。4 年間を振り返って、私は JS から多くのことを学び、成長することが出来たと思います。主務を務めていたことあり、時には時間に追われるようなこともありました。しかし、仲間と協力しながら、チーム勝利のために試行錯誤を繰り返した日々は、とても充実していたように感じます。JS に入り、多くの人と関わりながら活動できたことを私は誇りに思います。最後に、様々な面で JS での活動を支援し、応援してくださった OB の方々、4 年間本当に有難うございました。



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

塚田 亮

今年度、BK リーダーを務めさせて頂きました塚田亮です。今年 1 年が本当に大変な事ばかりで、4 年間を総括する言葉が中々見つかりません。が、引退して一番に思った事は、大学 1 年時、JS に入るという決断をして本当に良かったという事です。チームを率いる立場を経験できた事、ラグビーを続けられた事、そして何より、かけがえの無い仲間と出会えた事。もう現役としてその中に居られない事がショックでなりません。

今後は OB として、後輩達がかけがえの無い何かを得られるよう、助力をしていきたいと考えています。4 年間、本当にありがとうございました。



塚田 慶一郎

みなさんこんにちは。JSKS4 年の塚田慶一郎です。JSKS での 4 年間を振り返ってみると、あっという間だったなというのが正直な感想です。

楽しいことばかりではなく、辛いことや悲しいことも当然ありました。しかし、引退の瞬間をみんなが笑顔で迎えられたことは本当に嬉しかったですし、忘れることはありません。

好川監督、佐藤コーチ、奥田コーチをはじめ、先輩方や後輩のみんな、一年間本当にありがとうございました。JSKS で過ごした 4 年間は私の人生の良い思い出であり、宝物です。お世話になった方々に少しでも還元できるよう、社会人になってからも頑張りたいと思います。



所 礼峰

私は 1 年生の時は体育会蹴球部に所属していたので、2 年時よりこの JSKS に入りました。最初は環境の違いに戸惑いましたが、元より顔見知りの仲間も多く、溶け込むのにそう時間はかかりませんでした。

体育会とは違った学生中心のチームの難しさを実感しながら、この 3 年間で最高の仲間に出会えたと思います。社会人になってもここで得たこと励みに頑張りたいと思います。

最後になりましたが、コーチ監督をはじめ、支えてくださった多くの方々にお礼を申し上げます。



益田 悠暉

4 年間をまず一言で振り返ると、とにかくあっという間に過ぎてしまったという感じです。JSKS に入った当初の私は、まずチームの皆についていくことで精一杯でした。しかし年を追うごとに何とか皆と一緒に試合に出られるようになり、「やっとラグビーが楽しくなってきた!」と感じ始めた時にはもう引退がすぐそこに迫っていました。来シーズンからの JSKS を担う後輩たちには、すぐにやってきてしまう引退の時まで、ラグビーを大切にして、そして向き合っ
て欲しいと思います。仲間や OB の先輩方に恵まれたとても楽しい 4 年間でした。改めて深く感謝したいと思います。



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

吉村 捷平

4年生の吉村です。総括ということですが、JSでの4年間は自分にとって価値ある4年間でした。JSKSという歴史ある組織で試行錯誤しながらチームを作っていく。そこで得られた気づきは自分を成長させてくれ、そこで得られた仲間は自分の学生生活を豊かなものにしてくれました。

自分がJSに対してどれだけ恩返しできたかわかりませんが、これからもこのチームが愛され、大事にされるチームであってほしいと思います。

今までJSというチームを作ってくれたOBの諸先輩、そして最後に一緒にJSでラグビーをした仲間たちに感謝したいと思います。ありがとうございました。



●監督からのコメント

好川 弘一さん (1990 年卒)

関東大学クラブラグビーリーグに3年ぶりに復帰したシーズンでしたが、グループリーグで0勝4敗と苦戦。入替戦で一部残留を決めて来シーズン以降に向けて最低限の結果を残しての結果に終わりました。

ポテンシャルに満ちたチームでしたので、昨年までと違うコンタクトから生じるディフェンスの綻びに苦しみ、ようやく対応してチームとしてまとまってきたところでシーズンが終わってしまい残念でした。

しかし、

- 1) 体作りへの重点的な取り組み
- 2) 縦割りによるチーム力の底上げ

等の意欲的な取り組みも見られ、来シーズン以降の勝利へ向けての種が撒かれたことも事実です。

幸いにして2014シーズンも一部で戦うことができます。学生諸君のより本気でより自主的な、可能性に満ちたシーズンになることを期待しています。



OB チーム 活動報告・お知らせ

今シーズンから神奈川県社会人クラブリーグ部に昇格した OB チーム。毎試合メンバー集めに苦慮しながらも、強豪緋めく一部リーグで何とか残留が確定しました！

今シーズンの戦績と共に、来春に向けて、OB チーム顧問の多田 雅彦さんからコメントをいただきました。

●戦 績（神奈川県社会人クラブ選手権）

10/13	vs 湘南フジ	0- 40	●	リーグ戦
11/10	vs クイール	22- 34	●	リーグ戦
11/17	vs J-Eagles	22- 33	●	リーグ戦
12/ 1	vs 六郷クラブ	32- 31	○	CT1 回戦
12/ 8	vs 湘南フジ	0- 52	●	CT 準決勝



※CT: チャレンジトーナメント

●首脳陣からのコメント

多田 雅彦（顧問：1997 年卒）

97 年卒多田です。いつも OB チームへのご支援・ご声援ありがとうございます。

OB チームはこの秋から神奈川県クラブ選手権参加 7 年目にして、遂に、強豪ひしめく一部に昇格しました。

今秋のリーグ戦で 0 勝 3 敗に終わりましたが、春季上位チーム（東の本大会参加の為、秋のリーグ戦は不参加）を加えたトーナメントでは、春季大会 2 位の強豪を破る一部初勝利を挙げ、準決勝まで進出することができました。

今回はそんな OB チームの参加メンバーの状況をご紹介します。

秋シーズンは合計 5 試合で延べ 89 人、一試合平均 17.8 人のメンバーが参加しましたが、リザーブ番号が 22 番まで埋まることは、極めて稀で、リザーブなしの試合もあり、参加者（除くスタッフ）の平均年齢は 29.2 歳、1 試合の平均参加年齢層は以下のようなものでした。

41 歳以上	0.4 人
36-40 歳	2.8 人
31-35 歳	1.8 人
26-30 歳	9.6 人
25 歳以下	3.2 人
合計 17.8 人	



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

2011 年に OB チームルネッサンスとして、井之上前主将（2010）、白岩現主将（2010）、小西主務（2009）らの世代を中心に、一部昇格を果たした現在のチームですが、メンバー不足は常に最重要課題となっています。来春の大会で一部リーグ上位に入れば、上位大会の東日本大会も視野に入ってきますが、そのためには試合メンバーは勿論、スタッフも含めたメンバーの充実が欠かせません。

より一層の OB、OG 各位のサポートをお願いします。

- ・ 30 代後半以上、特に OB チーム創設時に活躍された OB の皆さん、スタッフとして、もう一度、チームを支えてもらえませんか。勿論、電撃現役復帰も大歓迎、同世代もまだまだ頑張っています。
- ・ 30 代前半 OB の皆さん、もうラグビーは引退・・・なんて考えていませんか！？後半残り 15 分限定でもいいので、グラウンドに足を運んで下さい。
- ・ 20 代 OB の皆さん、皆さんの同期の人たちが OB チームで頑張っています。卒業して、ラグビーから離れてしまう前には是非 OB チームへ！
- ・ OG の皆さん、学生時代を思い出して、メディカルや記録等の試合サポートをお願いできませんか。（上位の大会ほど、サポートメンバーが大事になっています。）



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

二島建夫 理事長挨拶

皆さん、こんにちは。

新年が明けて、早くも一か月余りが過ぎましたが、会員の皆さん並びにご家族の皆さんにおかれましては、お元氣でご活躍のことと思います。

まずは、昨年一年間、様々な側面から JSKS の活動をご支援いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

さて、2010 年 4 月の理事会で理事長を拝命して以来、2 期 4 年の間、理事長の職を務めさせていただきました。つきましては、今期を総括の年として、今まで以上に力を込めて、チーム強化、プログラムの充実に励んで来ました。その結果、既にホームページ等でご案内の通り、学生チームは厳しい状況の中、最終的には入替戦に勝利し、一部残留が決定しました。好川監督および佐藤・奥田両コーチには、あらためまして謝意をお伝えしたいと思います。

また、OB チームも神奈川クラブ選手権一部で健闘。多くの若手 OB が積極的に参画する好ましい環境が整いつつあります。

また、プログラム充実策の一環として、OB の村松謙一弁護士（1977 年卒）講演会を実施し、活躍する OB のお話しから、大いに刺激を受けることができました。さらには、全国各地の OB のご協力いただき、組織を挙げての新入部員リクルート活動を展開し、徐々にではありますが、成果を挙げつつあります。

私は 4 年前の理事長就任時、横河正三初代理事長が記された「JSKS とは、一生を最良の友として送ることが真の目的であると信ずる」という言葉を少しでも実現するべく、「JSKS を会員みんなの拠り所として、皆の家族に次ぐ存在としたい」と申し上げました。少々ハードルの高い目標を設定した感もありますが、今でもこれが私の本心であり、いままで理事長として邁進して来た原動力です。

JSKS は、未来永劫発展して行って欲しい、いや発展し続けなくてはなりません。そうした中、今後も微力ながら、幾ばくかの貢献ができればと考えています。まずは、4 年間のご支援、誠にありがとうございました。



以 上

「澤木さんを偲ぶ会」のご報告

「故澤木建衣先輩を偲ぶ会」が平成 25 年 12 月 7 日（土）銀座サンミ高松本店にて行われました。老いは 85 歳、若きは 38 歳、60 名の方々の参列を頂きました。神戸、名古屋、長野からも参じていただきました。関西支部の鵜さん（1970 年卒）は手紙で参加（同期の関屋さん代読）、仙台の伊藤さん（1974 年卒）は電話で参加。伊藤君はあの震災当時仙台空港ビルの社長を任じていました。澤木先輩に叩き込まれた JS 精神で壊滅的な被害から立ち直ることが出来ました。その姿をぜひ奥様にお見せしたかった。と当日朝、急に来られなくなって悔やんでいました。

奥様のご挨拶の中で、私は澤木家にではなく JS にお嫁に来たようだった。家では一度も怒ったことがない優しい夫だった。など語られあの恐かった先輩の一面を知ることが出来ました。澤木先輩は JS では 7 組の仲人をされて当日全員が集まりましたが夫人同伴でなかったのを残念がっておられました。JSKS はいつも「ファミリー」なのにと。

JS で最初に仲人をしていただいた今回の発起人の松浦さん（1951 年卒）から寄稿を頂きましたので以下にご披露いたします。
(世話人 門田 庄之助さん 1969 年卒)

「故 澤木建衣先輩を偲ぶ会」に寄せて

松浦 克己さん（1951 年卒）

私たちの親しき良き友、慕い頼れる兄、厳しく、慈しむ父のような、また私たちに JSKS のミッションを教え育て導いた師でもあった澤木さん。

JSKS クラブを創り築き伝統を培い、栄光の歴史に足跡を遺し、先に遥けき彼岸に旅立った諸先輩に迎えられ、煌く星が消え去るように逝った澤木さん。

早くも一年経った祥月 12 月 7 日に、令閨敏子さん、令愛雅子さん、典子さんをお招きして、澤木さんの薫陶を受けた多くの諸兄が集い、偲ぶ会を催し、語りあった。

置かれた遺影を背に、奥さんの手許のアルバムに若き頃の澤木さんの様々な英姿がセピア色に写っている。追憶は尽きない。ひたすらに強くなれと私たちを励まし鍛えた澤木さんの面影が彷彿と走馬灯のように浮かんでくる。

思えば戦後の荒廃した世相の中で、OB の方々は JSKS の伝統を護りクラブの再建に着手し、多くの困難を乗り越えて現役チームを復活させ、JSKS の歴史を繋いだ。

澤木さんとの出会いは、昭和 23 年（1948 年）の春だった。戦地での長い抑留から開放され帰国が遅れ、ひと足遅れて私たちに合流した澤木さんに、OB チームの協会加盟により初の OB 主将となり、間もなくして行われた戦後の川越に続く松本の夏合宿において、諸先輩とともに私たち現役チームの指導に尽くされた。

その頃、OB・現役共々に組織化が進み、やがて練習マッチができるメンバーが揃い、厳しい合宿が復活し、伝統の激しい練習も引き継がれた。「走れ、ひたすらに走れ、倒れて後止む、それぞれが体力の限界をしるまで動け」と、そこに先輩の叱咤激励があった。

昭和 24 年、澤木さんの実家世田谷弦巻の岡田邸での夏合宿は特に印象的であった。いつも先頭を切って走る澤木さん、駆け、蹴り、倒せ、押し捲れと励ます若かりし先輩達、「ワンサイド何時までたっても元の位置」と言われた猛練習、ホイッスルが鳴る、グラウンドにポイントヒアと澤木さんの掛け声が繰り返された。

慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

この頃から JSKS は強くなった、現役は負けなくなった、素晴らしいチームになった、真の友情は深まった、そして堅い絆で結ばれた。JSKS は甦った。

この合宿は戦後最高の盛り上がりを見せた合宿と云われている。その秋に、戦後屈辱的に敗れた宿敵 GW に完勝し、私たちは雪辱を成し遂げた。

この頃に逸話には事欠かない。合宿の朝は海兵の五省から始まり、ジョギングに軍歌や JSKS 讃歌が謳われ、OB の時に「龍雲を呼び、虎吼えて、往くぞ決死の十五人、いざ撃ち出でて蹴散らさん、エエイ」とウォークライを叫ぶ。集まった諸兄から世代ごとに澤木さんへの追憶がこの偲ぶ会で語られた。

多年に亘った、常に澤木さん共に在ったそれぞれの夏合宿の思い出、多くの観戦に訪れた澤木さんの想い、戦評と助言、幼いお子さんと共にオリンピアのグランドの土を踏む愉しみ、奥さんと同伴の総会出席、私たちと諸先輩ご家族共々の懇親の集い、銀行ラグビー部創設の話、7 人の媒酌をなされた憶い、澤木ゴルフ杯の由緒、菅平の体験、皆若き頃の日々の思いをとりとめもなく語る、話しは尽きない。やはり全ては今の現役の現状が気にかかるのか、、、 私たちの現役への願いと期待が語られた、澤木さんは「JSKS の伝統を引き継ぐのは君達だ」と言われた。私たちに寄せられた、澤木さんの献身的な愛情と、あの現役チームに対する熱情を、伝え語らねばと、追憶は尽きなかった。奥さんのご挨拶の中で「JSKS はその家族と共にあった、その集いを」と、語られたのが印象に残った。

集いの終わりに、澤木さんが現役主将だった昭和 16 年頃丸子のグランドで歌われた「JSKS の歌」が肩組み高らかに謳われた。「どうせ死ぬならよおー 球を抱いてよおー 土にキスしてよおー ニコリ笑おかよおー」・・・

JSKS の歴史に「ミスターJSKS」と刻まれた、「忘れえぬ人」澤木さん、ご冥福と感謝をこめて、またご家族の為に、力強くエールが叫ばれた。・・・

なにか遙けき彼方より「頑張れよ！ 強くなれ！ 幸せにな！」と、澤木さんが、わたしたちの集いに語りかけてきたようだった。・・・ 有難う澤木さん！



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKSクラブ会報」

2014年1月31日発行



支部だより

今回は関西支部での活動状況をご報告いたします。



関西支部より

関西支部からは恒例となりましたファミリーパーティーの様子について、辰巳忠一郎さんからご寄稿いただきましたのでご紹介します。

関西支部：辰巳 忠一郎さん（1968 年卒）

去る 11 月 17 日（日）に関西支部恒例のファミリーパーティーを開催しました。

今年は仕事や家庭の事情で都合がつかず欠席の方が多く、少し寂しい集まりとなるのではないかと心配しておりましたが、常連メンバーに加え、東京から 1974 年卒・上田修三さんが駆けつけ、現役の秋の戦い振りや問題点の紹介、リクルート活動への協力依頼等、学生チームへの熱い思いを語られました。その同期の北井盛敬さんも久しぶりに元気な姿で参加し、近況や JS 仲間との懐かしい昔話等を披露されました。

何より嬉しかったことは、2013 年卒・社会人ホヤホヤの小林拓矢さんが関西 OB の仲間入りをしてくれたことです。関西での最若手登場は 20 年ぶり以上ではないかと思います。自己紹介ではどんな仕事にも初々しく一生懸命取り組んでいる様子がうかがわれ、出席者一同には頼もしく感じられた次第です。

曾我部大先輩の奥様も変わらずお元気に出席されました。今年の出席者の中では最年長の 1961 年卒・松田圭司さんからは「福沢諭吉翁・学問のすすめ」を手にとって、その内容の素晴らしさを強調され、あらためて皆さんに熟読のすすめがありました。

パーティーも終盤に入り、1977 年卒・弁護士・村松謙一さんの仕事ぶりを紹介する DVD「どんだの会社よ、よみがえれ」を関西 JSKS において初公開しましたところ、大変好評で、多くの感動の声が寄せられ、JSKS のリクルート活動にも活かせるのではないかという話も出ました。ご本人の村松さんには勿論のこと、DVD を貸していただきました二島理事長に厚くお礼申し上げます。

最後に当日の写真を 2 枚添付していますが、上田さんが宴の途中「只今、二島理事長を連れて参りました。ご挨拶を」という笑い的一幕も映っています。ご出席の皆様のお陰で今年も和やかにパーティーが行われたかなと思います。今後とも宜しく>お願い致します。



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKSクラブ会報」

2014年1月31日発行



二島理事長の登場シーン(*^_^*)

マネージャー列伝



マネージャーを紹介するこのコーナー、今回は現在1年生の現役マネージャー、松葉咲希さんから寄稿いただきました！ マネージャー1年目ながら色々な経験をされて、JSKSの一員としてすっかり定着している様子が伺えますね！

現役マネージャー：松葉 咲希さん（1年生）

こんにちは、今年度からJSKSのマネージャーとして活動させていただいている松葉咲希です。

私がマネージャーになろうと思ったきっかけは、もともとラグビーというスポーツに興味があったことと、中学の頃からラグビーの試合を目にする機会が多く慶應志木の試合もよく見ていたため、JSKSには知っている方も多かったので入部しようと考えました。

実際、入った当初はラグビーという名前を知っているだけでルールもほとんど知らなかったもので、楽しくというより不安の要素のほうが大きかったのを覚えています。私はなんとかポジションやルールを覚えるためにいろいろな試合を観たりしました。しかし、ただ観ただけではわかるはずもなく、結局プレーヤーに聞くということも多かったと思います。当時はプレーヤーの名前を覚えたり、どうにかして同期と仲良くなろうと必死でした。しかし、入ってすぐに体育会ラグビー部との試合、毎週末の試合の日々が始まりそれどころではなく、覚えることが多くてついていけないといった感じでした。



それでも練習や試合で先輩のマネージャーの方々がてきぱき仕事をし、プレーヤーに頼られている姿を目にして私も先輩方のようになりたいと思い、わからないことは全て聞き、テーピングなどもしっかり覚えようと決めました。マネージャーの先輩方に一つ一つ仕事を教えてもらい、迷惑をかけつつもここまでやって来ることができました。

夏には練習の回数も増え、マネージャーの先輩方、プレーヤー共に会う機会が増えたことで仲良くなることができました。それからは同期だけで集まることもできるようになり、同期との絆も深まった気がします。また、夏には合宿という大イベントもあり、あの大人数での合宿は初めてだったので、最終日の帰る頃には本当にくたくたでやりきった感があったと共にマネージャーとして沢山のことを学び、生かすことが出来ました。例えばテーピングや試合でのスコアの取り方などです。スコアは始めはとるのに時間を要していたのですが、今ではスラスラと取れるようになり合宿でやりこんだおかげだと思っています。他



にはプレーヤーの体重・体調管理なども行い、10日間、生活面でもチームを支えることが出来ました。

合宿を含めた長い夏休みが終わると学生クラブ選手権が始まりました。

慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

今年からは一部ということで春や夏の合宿で戦った早大 GW さんや明大 MRC さんと戦えるということでもとても楽しみにしていたと同時に気合を入れて練習に励みました。初戦は体育会でもある RKU 龍ヶ崎さんだったはずなのですが台風で延期になってしまい、初戦が明大 MRC さんとの試合でした。正直私は夏の合宿で勝てた相手だったのでさほどレベルが上がっていなければ勝てるのではないかという甘い考えでした。しかし実際に戦ってみるとフルメンバーで挑んだものの僅差で負けてしまい、プレーヤー・マネージャー共にとても悔しい思いをしました。それからは平日・休日の練習にも気合を入れて臨みましたが一部の方々の強さに及ばず、全敗という形になってしまい 12 月まで練習が続きました。入れ替え戦が決まった後の練習ではミーティングを行ったりメニューを変えて練習をすることが増え、これからどうしてゆけばいいのかチームとしてどのようなところを改善すべきかなど個々人で考え周り意見し、入れ替え戦で勝ち来シーズンも一部のチームの方々と試合をしたいということでチーム全体がまとまり、私も今シーズン最後の試合まで気合を入れて練習に励もうと決めました。

最後の試合までには、当たりの多いスポーツ故に怪我をしてしまう人も少なくなく、マネージャーが練習に必要な不可欠な存在になっていました。今までマネージャーとして自信のなかった私もプレーヤーに頼りにされることが多くなり、練習に行くことが楽しみでチームの中でも早くグラウンドへ行き、準備をしてそのグラウンドで一生懸命練習に励んでいるプレーヤーたちを目にして、最後の試合に絶対に勝ってもらえるよう全力でサポートしようと思いました。練習試合や雨の日を利用してのミーティングも通して、入れ替え戦が決まった日から一瞬で最後の試合の日になってしまったのを覚えています。

最後の試合、朝集合をしてからアップ、プレマッチミーティング、試合中もずっと緊張していました。結果として一部残留が決まったときは本当に嬉しく、ホッとしたのと同時に、来シーズンからは今シーズン負けてしまった相手にも勝てるよう練習を重ねていかなければならないなと思いました。

マネージャーとしての活動が始まってから、チームの中でプレーヤーとマネージャーは全く違う位置でやることも考えることも違うと考えていましたが、今シーズンの練習、試合、合宿、を通してマネージャーはプレーヤーと同じようにチームに必要な不可欠であり、存在の大きさを実感することが出来ました。一時期苦しく辛い日々もありましたが、そんな時も支えて声をかけてくれたのはチームのみんなでした。本当に嬉しく、入って良かったなと今でも思っています。

来シーズンからも多くのことを学び、精一杯チームを支えていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。



若手だより

JSKS を卒業後、社会人として各地で活躍する若手 OB をご紹介するこのコーナー、今回は、現在も会社のチームでラグビーを続けられている平川 慧さんより寄稿いただきました。

平川 慧さん（2011 年卒）

JSKS の皆様

多くの諸先輩方ご無沙汰しております。2011 年卒の平川でございます。

今回、社会人 3 年目ということで「近況報告・JS の生活を振り返って」というテーマで寄稿させていただきました。また、僭越ではございますが結びに現役諸君へ向けてのメッセージもございますので、駄文ではございますが、最後までお付き合いいただけましたら幸甚です。

<近況>

現在私は、三井不動産株式会社に勤務しております。口下手、人見知り、シャイボーイの平川ではございますがビルディング本部 法人営業 2 部という部署でオフィスビルへのテナント営業を行っております。

担当しているエリアは主に日本橋エリアになりますので、お立ち寄りの際にはぜひ平川を呼びつけていただきますようお願いいたします。

また私の入社いたしました会社には 1988 年卒 JSOB の加藤智康さんがおり心強い限りです。現役の皆様には就職活動の際に当社へ OB 訪問に来ていただき、加藤さんと話をしてみてください。一気に志望度が上がること間違いなしです！

会社ではラグビー部にも所属しておりレベルの高い中でラグビーを続けております。現役時代は FB をやらせていただいておりますが、現在会社のチームでは主に WTB, CTB をやっております。「JS のレベルはこの程度か！」と周囲に言われないように仕事と同じくらいラグビーにも注力しております。

<JS で学んだこと>

私は JS を 2 部に降格させてしまった代で主将をやらせていただいております。正直私が 4 年生時にチームをまとめられなかったことが最大の理由だと思っております。先輩方が築いてくださったようなチームを作れなかったことが悔しいです。仲間と腹を割って話をし初めてチームに結束が生まれることを学びました。実際に社会人として仕事に取り組むにあたっても必要だと感じるシチュエーションもありました。私がしている後悔を今後しないためにも、今後壁にぶつかった際には、JS の現役には腹を割って話をし初めてチームを、0 から 1 を作っていくことができるということを実感しておいていただければと思います。



1988 年卒の加藤 智康さんと



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

OB からのおたより

こちらのコーナーでは、現役卒業後も活発に JSKS の仲間と交流を続けられておられる OB の皆さんからの近況報告をご紹介します！

今回は、渡邊 忠貴さんより楽しそうな関西懇親会の様子を投稿いただきました。

渡邊 忠貴（1966 年卒）

第 5 回関西懇親会：関西 OB の“お・も・て・な・し”～ おマヌケ三連発

夏の JSKS の風物詩、恒例となった第 5 回関西懇親会が、今年も名幹事役の田中（66 年卒）の音頭取りで、7 月 11 日夜の「河久」の一次会から、北新地の名門クラブ「薔薇」に移動しての二次会と続き、翌 12 日は、芦屋カンツリークラブでの親睦ゴルフと有馬温泉「古泉閣」に移動して関西の長老金子（62 年卒）らの出迎えを受けて宴会になだれ込み、13 日朝の解散まで豪華な大名旅行が終わっておよそ 3 か月、今年も関西 OB の心温まる「おもてなし」に一同楽しい思い出を作ることができました。



ホテルに着いて旅装を解き、部屋でうとうとしていた 11 日の夕方 6 時過ぎ、「田中さんから電話です」とフロントからの呼び出しに寝ぼけ眼で対応すると、「ナメちゃん、もうきれいどころが河久に来ているので行こうや」「へえ？ 6 時半出発ではないの？」といぶかるナメコ（筆者）に「それが早まったんや」との神のお告げ。慌てて着替えをしてフロントに駆けつけると、ほぼ全員が揃っていた。

しかし、何やら空気がおかしい…… 怪しい…… これがおマヌケ三連発の始まり。

同じように電話でたたき起こされた「A」。何を思ったか、ゴルフの出迎えと勘違いして堂々と「チェックアウト」して 30 分ほど前にもらったキーカードを返却。驚くフロントをしり目に、意気揚々と幹事役の田中のもとへ！！

「俊ボー、チェックアウトしてきた、ゴルフ場に行く俺の車はどこ？ 運転手は誰？」と、得意顔で矢継ぎ早に発信！！

「はっ？ 何かの間違いやろ…… これから河久に行くんやで。今はまだ夕方屋で、朝ではないんや」

そこで初めて自分の間違いに気づいた「A」。再びフロントに戻り、今度は「チェックインしたい」と高らかに宣言。



周りの仲間は、大爆笑。照れるどころか本人は、キーを早くとせがむ。そして、チェックアウトしたばかりの部屋に持っていくようにと自分の手荷物をフロントに預けようとした。付き添いの小田（67 年卒）は、「A」に代わってフロントマンに、今、チェックアウトしたのは間違いで、先ほどの部屋に入れてほしいととりなして一件落着。

慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKS クラブ会報」

2014年1月31日発行

翌 12 日の朝、ゴルフコースのフロントで手続きを済ませた「B」は、宅配したゴルフバッグとシューズを受け取るために係のもとへ。しかし、いくら探してもない。「そんなはずはない、一昨日送ったんだから。今日のプレーに間に合うように、日にちを指定して、自分で送ったんだから間違いない」と気色ばむ「B」。当然困惑顔のコース側。念のためにと「B」が家人に電話して控えの伝票を確認してもらおうと、プレー日はなんと翌週の 17 日 (!!) と指定していた。そうさ、届いていないはずだよ。真っ青になった「B」はフロントに戻り、不手際を詫びながら、クロネコの芦屋のデポにバッグが届いていないか確認してもらったところ、「届いています」との返事。しかしスタート時刻も迫っており、自分の道具はそろわないので、貸クラブと貸靴で、あわてて、練習もせずにスタート。後半は自分のクラブが届き、ことなきを得たがスコアは 1 打しか改善されなかった。「結局クラブ云々ではなく、自分の腕前なんだよね、ゴルフは……」と嘆く「B」。



そのゴルフ大会は、20 名に増え、進藤 (83 年卒)、西野 (78 年卒)、後藤 (74 年卒)、梶原 (73 年卒)、上田 (74 年卒) が初参加。優勝は関西 OB の事務局長を務める辰巳 (68 年卒)、3 年連続ベスグロの鵜 (70 年卒) は「もう来年は結構ですわ!!」と豪語。相変わらず、66 年組は、上位を占めることがなかった。

夜の宴会では、豪華で美しいアワビ (意味不明) を求める伊勢志摩半島めぐりを主張する徳岡 (83 年卒) と、長崎、熊本の夜の弾丸ツアー (美女のおもてなしつき?) を熱く訴える西野の舌戦に全員大いに沸いて今年の有馬の夜も更けていった。

と思いきや、最後のおマヌケが残っていた。

13 日朝、無事チェックアウトを済ませて、古泉閣を出たところ、宿のフロントが申し訳なさそうに一言、「お客様の中に鍵をお返しいただいていないお方はいらっしゃいませんか?」、ややあって「C」が「申し訳ない、僕でした、」と手元のバックの底から鍵を出してすべて一件落着。軽いおマヌケだった。

「JSKS は永遠に不滅です」と絶叫した佐橋 (66 年卒) の挨拶とともに、楽しかった第 5 回の関西懇親会もおしまい。

年々、歳を重ねる我々は、来年もきっとおマヌケを連発するのではないかと恐れつつ、参加者の健康を祈ろう。俊ボー、来年も社長業続けてね (去年も同じことを言ったっけ)

以 上
(文中敬称略)



《お知らせ》

新入生のJS入部勧誘活動－OB諸氏の御協力をお願い

理事長 二島 建夫

学生リクルートチームは理事会・チーム強化及び広報、関東地区OB、中部・名古屋地区OB、関西地区OB、九州地区OBの協力の下に、総力を挙げて本年4月慶應義塾大学入学の新入生を対象にJSKS入部勧誘活動を展開します。

今年は13名の多くの4年生が卒業し、新4年生－2年生の部員は合計31名（内マネジャー4名）と少人数となります。故障者も多く、学生クラブリーグ戦にリザーブを含めて必要なプレーヤー数を揃えるにも苦慮する危機的な状況です。今後充実した練習体制、選手間の健全な競争環境を維持しチーム強化の為に、20名程度の新入生獲得が不可欠と考え、昨年12月より勧誘活動に取り組み始めました。

●具体的活動は：

第一段として昨年12月に8月発行の会報を発送し、JSKSの本分、文武両道、強固な結束のOBネットワーク、就職支援活動を知っていただく活動を開始しました。

●今後の活動としては：

- ▶ 1月19日駒澤競技場（横河の試合がある日）でJSKS学生がトップリーグチャレンジマッチの設営&運営を湘南高校生とともにボランティア活動し、試合後に湘南高校生と懇親会でJSKSをPRしました。（69年門田さんの呼びかけで実現）
- ▶ 2月中には勧誘パンフレットを作成しJSKS OBが多く在籍した出身高校、慶應に進学者が予想される高校ラグビー部監督の方々に対して個別に手紙と共に発送予定です。制作完了時に紹介させていただきます。
- ▶ 2月中に学生達にJSKSの魅力を伝えるプロモーションビデオを作成し、YouTubeへの掲載予定です。制作完了時に紹介させていただきます。
- ▶ またJ.S.K.S.HP上での勧誘コーナー、Twitter、フェースブック、ブログなど多様な仕掛けも設置する予定です。
- ▶ 3月末に開催されます横浜アスレティッククラブ主催の関東、静岡、愛知の公立高校を中心とした（2013年度は麻布、桐朋高校も参加）セブンストーナメントにJSKSが運営サポートし同時にリクルート活動も実施します。

JSKS全OB諸氏には是非ともご自身の出身高校の後輩のみならず、親族、ご友人のご子息・子女が慶應義塾大学に進学する際には、JSKSへの入部を薦めるようお願いする次第です。



慶應 JSKS ニュース

「慶應義塾大学 JSKSクラブ会報」

2014年1月31日発行

会報は、いよいよデジタル化へ

広報担当理事 高橋 正典

以前よりご案内させていただいております通り、「JSKSニュース」は、今後、JSKSホームページに掲載し、会員の皆さんからご覧いただくスタイルに変更させていただきます。従って、全会員の皆さんに印刷物としてお届けするのは、今回の号が最後となります。新しい会報がホームページに掲載された際のお知らせは、その都度、学年幹事経由でご案内させていただきます。

なお、1959年卒以前の会員の方々には、従来通り、印刷しました会報を郵送にてお届けいたします。

また、会報に掲載する様々なトピックを、随時、個別ニュースとしてホームページに掲載し、会報は、これら個別ニュースの集約版と位置づけます。

つきましては、今後、ますます充実するホームページに、さらにご注目いただきたく、よろしくお願いいたします。

<http://keio-jsks.com/>

